

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28152 プログラム名 和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！～五感を使って和漢薬体験～



開催日:平成28年8月7日(日)

実施機関:富山大学

(実施場所)和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館

実施代表者:伏見裕利

(所属・職名)和漢医薬学総合研究所・特命准教授

受講生:中学生8名、高校生15名

関連URL:http://shiryokanhp.inm.u-toyama.ac.jp/mm/addition/add_index.html

【実施内容】

【工夫した点】

五感を通じて和漢薬を身近に感じてもらうように、視覚、味覚、嗅覚などを使って区別したりする方法を主体とした。この方法により、自然と周囲の参加者との会話が生まれ、全体として活気のあるプログラムになったものと考えられる。

またあらかじめ実施協力者である学生に必要な事項を伝えておき、学生の口から参加者にむけて話しをする方法を取り、参加者と学生との関係を強めた。実際にアンケート結果からは、参加者にとっては、学生に教えてもらったほうが、より伝わりやすいとの意見が多かった。学生にとっても自分自身で説明することにより、自覚が芽生えて、予習をしてきていた。年齢も近いことから、学生と参加者との距離も近くなり、また参加者も質問しやすい状況になったものと思われる。

当日、野外で薬用植物の観察を予定していたが、炎天下での観察は危険と考慮して、あらかじめ採取した植物を教室内で観察することとしたので、熱中症にならずに過ごせたものと思われる。

【当日のスケジュール】

時間	内容
9:30～10:00	受付(民族薬物資料館1F)
10:00～10:30	開講式(あいさつ、日程説明、自己紹介、科研費の説明)
10:30～11:00	①講義「世界の伝統医学の紹介と使用される生薬」
11:15～12:00	②実習「民族薬物資料館展示室見学」
12:00～13:00	昼食休憩(薬膳弁当、生薬入り茶)
13:00～13:45	③実習「桂枝湯と葛根実習鑑定」
14:00～14:30	④実習「野外で薬用植物の観察」
14:45～15:30	⑤実習「薬草ハーブティー作り」
15:45～16:00	⑥実習「お香体験」
16:00～16:30	学習の振り返り&発表 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、あいさつ)
16:30	修了・解散



本プログラムの参加者

【事務局との協力体制】

- ・研究振興部研究振興課が、広報手段の提案、振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正を行った。
- ・医薬系事務部研究協力課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。また当日の運営にも協力した。
- ・総務部広報課がニュースリリースによって県内の報道機関に情報提供した。また、大学のHPのイベント情報で本事業について掲載した。

【広報活動】

- ・富山県庁、富山市教育委員会を訪問し、本事業についてPRするとともに、ポスターの掲示を依頼した。
- ・県内15市町村教育委員会に依頼し、県内すべての中学校にポスターとチラシの配布を行った。高等学校には直接郵送した。その他、県内の図書館など、公共施設にポスターを郵送し、掲示を依頼した。
- ・学内電子掲示板に本事業の募集案内とポスターを掲載した。

【安全配慮】

- ・事前に食物アレルギー調査票を記入していただき、受講生の実態を把握し必要に応じて昼食を一部アレンジした。
- ・薬草ブレンドティー作りの実習では受講生を3グループに分けて、それぞれのグループに実施者と協力者を配置し、事故の起こらないように配慮した。
- ・薬草ブレンドティー作りは実施協力者とともに予備実習を行い、器具の取扱いや煎じ方について確認した。
- ・受講生を短期の傷害保険に加入させた。

【今後の発展性、課題】

- ・準備に時間とお金がかかりすぎってしまうので、簡略化を試みる必要がある。
- ・特に広報活動に時間と労力がかかるため、他の部局との連携の必要性がある。

【実施分担者】

門脇 真	和漢医薬学総合研究所・所長、教授
小松かつ子	和漢医薬学総合研究所・教授
出口 鳴美	和漢医薬学総合研究所・技能補佐員

【実施協力者】 7 名

【事務担当者】

村田 佳美	研究振興部 研究振興課・事務職員
清水 由美子	医薬系事務部 研究協力課・係長
小川 千都世	医薬系事務部 研究協力課・係長